

## 第1回検討委員会を受けたオブザーバーの意見

- 特別支援教育の充実においては連携の強化が重要。特別支援教育コーディネーターを通じた医療、労働、福祉関連機関との連携が不可欠。
- 「切れ目ない支援の充実」の実現には、教育分野内の連携と専門性の向上が必要。個別の指導計画の共有やPDCAサイクルの機能が重要。
- 管理職の特別支援教育への理解推進と専門性向上が重要。併せて、特別支援学校免許状の取得や特別支援学級担当者の保有率向上が求められる。
- GIGAスクール構想でICT化が進展しているが、地域間格差が大きく、タブレット活用の違いが顕著。
- 教師の働き方改革が必要で、先生自身が子どもたちに魅力的なモデルとなることが重要。疲弊した教師像を避け、家庭と学校が責任を分担すべき。
- 政府の教育改革は現場としては困難な計画を提案することがある。検討委員会では現場の声を聴き、実効的な計画を作成してもらいたい。
- 県立高校は生徒数減少への対応が必要。私立高校も関係する問題であり、現実的な議論が必要。併せて施設整備に向けた予算の確保が重要。
- 生成AIによってこの先10年間の教育は大きく方向転換の可能性。入試制度、学校の役割、地域との連携を根本的に見直す必要。ウェルビーイングな社会に向け、エージェンシー※育成が重要

※ 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力 ≡ 主体性